

令和6年1月25日（木）

校長

委員 元森ノ宮医療学園校長（元大阪府立高校校長）、豊中市立第三中学校校長、
大阪府立桜塚高等学校 PTA 会長、豊中市地域教育協議会会長、
尚和会会長、桜援会会長、

事務局 教頭、事務部長、首席、教務主任、教務部副主任（情報）、生徒指導主事、
生徒指導部副主任（自治会）、進路指導主事、保健主事、各学年主任、書記

1 会長、校長 挨拶

- ・公立高校において厳しい状況がある中、生徒・保護者の評価を踏まえ確実に取り組んでいる。来年度も引き続き取り組みたい。
- ・R6年度入学者選抜でも厳しい状況があり、高校無償化の影響だけでなく、私立学校の活発な働きかけもあって、中学生の志願の傾向も変化してきている。多様な生徒に対し、広報活動を通して積極的に魅力を発信していく。

2 報告

* 「▶」：委員からの意見

令和5年度学校評価について（資料1, 2, 3）

- ・令和5年度 学校経営計画及び学校評価について

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

- 〈1. 学ぶ力をつける〉ほぼすべての項目で肯定的な評価になった。桜塾については、成果が出ているので引き続き取り組んでいく。
- 〈2. 人間力をつける、規律…〉遅刻と学校行事に関連して課題が残った。
- 〈3. 地域の信頼される学校…〉（1）豊中市等との連携、（3）ホームページを使った広報活動が目標に届かなかった。
- 〈4. グローバルリーダーの…〉国際交流について評価指標に届かなかった。
- 〈5. ティーム力を生かした…〉分掌や学年の連携について、教職員向け学校教育自己診断で数値が下がっていることが大きな課題である。

- ▶ 保護者の要求水準が上がってきている中で、桜塚の先生方の努力で成果が出ていることが卒業生としてもうれしい。
- ▶ 地域連携などは、働き方改革の影響もあってお互いの時間の枠内で連携を組めない事象も出てきている。

→働き方改革については、効率化はできても質を落とすことになるので時間を減らすことはできないという難しさがある。

- ・令和5年度 学校教育自己診断結果について

保護者結果について、地域の他の学校と比べても肯定的な評価が多く、来年度も引き続き頑張りたい。生徒結果について、授業に関する項目では軒並み高い評価であるが、部活動の参加と地域・国際交流については課題である。特に16については、人間関係づくりに課題があるのかと考える。しかし、何より、「学校へ行くのが楽しい」の結果が85.7%であることが取り組みの大きな成果である。

3 協議

令和6年度学校経営計画について（資料4）

- ・ 中期的目標についてはこの場での協議を受けて確認後に提出。
- ・ R5年度に策定した「スクールミッション」をうけてめざす学校像に記載する形で変更。
- ・ 電子黒板の導入やその他、実際の取り組みに応じて表記を変更。
- ・ 年間延べ遅刻者数の数値目標について。
 - ▶ 怠惰とだけ捉えることが難しく、ヤングケアラーや起立性調節障害のといった背景もある。
 - ▶ 数値目標達成に向けた指導というより、個々の状況を見極めて対処する必要がある。
∴遅刻について、質を問いながら数を減らすことを目標とするが、数値目標は削除。
- ・ 部活動加入率について
 - ▶ 部活動の参加について減少傾向にある。コロナの影響もあるが、地域のクラブチーム、プロ傘下のジュニアチームなど選択肢が増えた。
 - ▶ この2～3年で習い事も増えて、中学校でも部活動で引っ張ることは難しくなっている。eスポーツでは中学生でプロという生徒も。
 - ▶ 部活動も加入率を数値目標にすることが難しい。

4 本年度の取り組みについて

授業改善の取り組みについて（資料5）

- ・ 授業力向上について、教員同士の研修を通じた学びあいのおかげで、電子黒板やICT端末の活用度は年々上がってきている。
- ・ LGH公開授業週間では、全授業を公開し多くの方が来校された。来年度も実施予定。
- ・ 授業相互見学では、来年度、校内での参加率を上げたい。
- ・ 今年度、これから県外からの視察予定有り。（鹿児島：1月末、兵庫：2月）
- ・ 生徒の授業に対する受け取り（学校教育自己診断）について、この数年で右肩上がり。コロナ後、ICT活用が進んだことと、自主的な研修が活発になったことが理由。

地域連携の取り組みについて（資料6）

- ・ 地域連携の取り組みについて、行なっていることを知らない生徒や保護者がいるのではないか。参加した生徒の達成感の高さも調査していない。これらが来年度の課題。
 - ▶ ニュースレターでの発信やホームページでのお知らせでも難しいのか。
 - ▶ 知っていることは大切なので、広報板を使うなど嫌でも目に触れる機会を持つ等の効果的な広報の方法を探す必要がある。

桜塾（ECC英検対策講座）について（資料7）

- ・ 今年度3ターム制に変更、短期集中になり、高い受講率であった。満足度も9割以上と高かった。
- ・ 人数は20名程度と少なかったため、R6年度は2タームに絞って募集する予定。

生徒指導状況について（資料8）

遅刻について

- ・ 今年度は数値を目標に、遅刻防止週間を設定するなど取り組んだ。
- ・ 目標は達成できなかったが、12月末までの遅刻者数は昨年度に対し250ほど低かった。

服装について

- ・1・2年が既定のセーター・カーディガンと男子のブレザーに。
- ・例年よりスカート下のジャージが目立った。注意喚起を継続してなくしていきたい。

挨拶

- ・アンケートでは「自然に挨拶が交わされている」が80%を維持できた。来年度も継続していきたい。
- ▶ 中学校でもある程度、許容しながら指導しているが、来年度より豊中市では小中一貫義務教育学校が新設・開校されるにあたり、頭髪や服装指導について小中の差をどう埋めるか、これからすり合わせが必要。

学校行事（体育祭・文化祭）について（資料9）

- ・現在、体育祭・文化祭ともに来年度の日程調整見直しを行っている。
- ・体育祭は5/31（金）、文化祭は9/6・7（金・土）を予定している。
- ・そのほか自治会執行部の取り組みとして、新しく始めた地域連携もあった。
- ・岩手県大槌高校との連携も、自治会生徒等を中心として交流活動を持つことを検討している。

7 6期生進路状況について（資料10）

- ・総合選抜・学校推薦型選抜（公募）の受験者・合格者ののべ人数について説明。
 - ・年々、年内入試への出願が多くなってきている。国公立への合格者も出ている。
 - ・共通テストの中間結果の速報値について説明。
 - ・共通テスト出願147のうち20弱が欠席であった。出願が9月なので、私学志望者の共通テスト離れか。国公立志望が多くないのか、あるいはあきらめているのか。
 - ・懇談等で地方国立に目を向ければと提案しても、保護者の意向で周辺私学への志望となるなど、この5～10年の傾向として、保護者の意見が進路選択の決定により大きく影響するようになった。
 - ▶ 大学でも生徒ではなく保護者からの問い合わせが増えている。
 - ▶ 中学校でも家庭によるが、早く決めたい保護者が増えている様子もあり、公立高校入試まで待てない保護者が、無償化の影響によってどう変化するか注視する必要がある。
- 私学の共通テスト利用もあるが、合格には70%の得点率が必要であるなど、一般選抜とは受験生の層が異なる。また、科目数も多く負担が大きいということが共通テスト離れの理由か。
- 高等学校の授業は変わる必要があり、入試に向けた授業から変わってきた。それに応じて共通テストも変わってきたが、私学の入試の変化は小さい。将来に必要な学力と入試に必要な学力との間にギャップが生じているのが現状。

5 その他

- ▶ 大学入試が変われば、高校の授業が変わる。そして高校入試が変われば、中学の授業が変わるのではないか。
- ▶ 桜塚高校にあこがれている中学生は多い。この会議であったような様々な取り組みをして、中学生たちを刺激してくれていることが大変ありがたい。今後も活発な取り組みを続けてもらいたい。